

ふらっとふらわーず ニュース

● 発行：ふらっとふらわーず
 ● 2014夏号：第7号
 ● 連絡先：042-682-2835
 ● 編集委員：内田信子

● 季節の花：朝顔
 ハイビスカス
 ● コラム：肥料
 ● 情報：花のイベント

季節の花

★【アサガオ（朝顔）】 ヒルガオ科サツマイモ属



歌川国芳画

夏の早朝、この花を見つけると清々しい気持ちになります。そんな情景が伝わってくる気がします。源氏物語の人物名にも登場する朝顔は、日本で古くから親しまれている花です。原産地は、東南アジアにマラヤ高原と言われています。今から千百年以上も前の奈良時代に、中国から遣唐使によって伝来したと言われ、当時は種子が大変貴重な漢方薬として珍重され、下剤用として使われていたようです。（効き目が強すぎるので、現在では使われません）今のような鑑賞用として栽培されるようになったのは江戸時代に入ってからです。朝顔の種のことを中国名で「牽牛子」「ケンゴシ」と言い、牛を引いて行って種と交換したところからこの名があるそうで、七夕の「彦星・織姫」が「牽牛・淑女」ともいうことから、入谷の朝顔市は七夕の前後の三日間、開催されるようになりました。和名を「阿佐加保」と書き、後に朝に咲く花であることから朝顔と言われるようになったとも言われています。つる性の一年草で、あんどん仕立てもカーテンのように仕立てる方法が代表的です。花色には白、ピンク、青、紫の他、筋状に白い模様が入る「曜日」と呼ばれる模様などもあり、変化に富んでいます。最近グリーンカーテンによく使われている「西洋アサガオ」は生育旺盛でよく茂り、花付きが良いのが特徴です。アサガオより晩生で主な開花時期は晩夏、晩秋、霜が降りて枯れるまで咲き続けることもあります。また、朝に咲く「朝顔」のイメージを覆し、風を過ぎても観賞できます。

育て方

栽培環境：日当たりと風通しのよい場所で育て、耐暑性がありますが、真夏は日中、葉がしおれやすいので西日を避けます。

水やり：花が咲くまではやや控えめに、花が咲き始めたらたっぷりと水やりし、生育旺盛となる夏は、朝夕の水やりが必要
肥料：元肥として緩効性肥料を土に混ぜておき、その後は、10日に1回程度、チッ素分の少ない液体肥料を施します。花がつき始める7月中旬からは中止。

作業：一日花なので、タネをつけないよう、毎日咲き終わった花を摘み取りましょう。

花言葉

「愛情」「平静」「明日もさわやかに」（花言葉事典より）



★【ハイビスカス】 アオイ科フヨウ属（ハイビスカス属）

ハイビスカスは、赤や黄色、白、ピンク、オレンジ色など原色の鮮やかな花色が魅力の熱帯花木です。まさに「夏の花」というイメージですね。花の寿命はほとんど1日限りです。一般に親しまれているのは鉢植えのハイビスカスで、販売時にはほとんどに矮化剤が散布されており、高さ30cm程度のもので多く見られます。しかし沖縄などで地植えされている株は3m程度まで大きく伸びます。ハイビスカスの原種は、ハワイ諸島、モリシヤス島に数種が分布します。沖縄ではフツソウケ（仏桑花）と呼ばれて親しまれていて、古い時代に中国南部から入ったといわれています。当時、貴重な花として扱われ、寺や士族の庭園に植えられました。フツソウケは1614年、島津藩から徳川家康へ献上されました。同属のアオイ科の花は夏に咲くものが多く、「ムクゲ」「フヨウ」「タチアオイ」などがあります。時期はフヨウが8月下旬からと遅く、花の特徴では、ハイビスカスはめしべとおしべに色が付き、おしべが柱頭の先端の方に付く。フヨウはおしべが柱頭の下から付き、めしべが上向き。ムクゲはめしべが正面を向く所で区別できます。

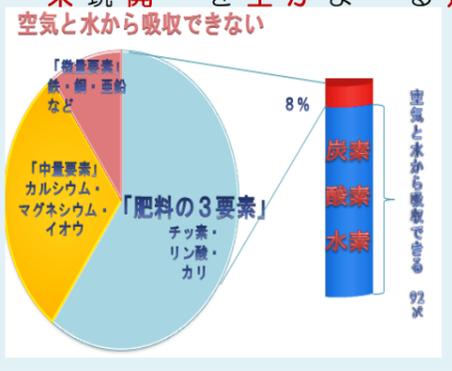


花言葉

「勇敢」「華やか」「私の思いを受けて下さい」（花言葉辞典より）
 （参考：趣味の園芸、ヤサシイエンゲイ、おきなわ緑と花のひろば、お花の写真集）

コラム 植物のおかず

植物に必要な養分は92%が空気と水から吸収できる「炭素・酸素・水素」ですが、残り8%は空気と水から吸収できません。この8%の養分の中で特に重要なのが「チッ素・リン酸・カリウム」です。チッ素は「基本的生育」に関わり、茎葉や根を生長させる養分の吸収を促進させる作用があります。不足すると「葉が小さい、葉が薄くなる、生育不良」などの症状が現れます。肥料としては「油かす、魚かす」などがあります。リン酸は「生長」に関わり、茎葉や根の伸長を助け、開花や結実を促進します。不足すると、「着花数の減少、開花や結実の遅れ」などの症状が現れます。肥料としては「骨粉、米ぬか」などがあります。



カリウムは、「生理作用を調整」します。暑さ寒さなど環境に対する抵抗性や、病害虫に対する抵抗力をつける作用があります。不足すると、「病害虫の被害を受けやすい、株が倒れやすい」などの症状が現れます。肥料としては「家畜ふん堆肥、草木灰」などがあります。

肥料の種類に無機質肥料（化学合成）と有機質肥料（天然物）があります。無機質は石油や鉱物を原料とし、臭気がなく速効性があります。有機質は油かす、魚かす、鶏ふんなどがあり、臭気があり、効き目がゆっくりです。有機質肥料は、分解に時間がかかるので全量元肥（植え付けるときなどに事前に与える肥料）が原則で、不足分は化学肥料で補いますが、新しい根が伸びるまでは控えめです。また休眠期は養分を吸収しません。洋ランは冬、梅やサツキは夏が休眠期です。生育が悪い場合は逆効果の場合も有ります。

生育不足は「根詰まり、水の過不足、不適切な栽培環境」など様々な原因が考えられます。生育の様子をよく観察し、原因を考えてから肥料を施します。肥料が濃すぎると「肥料焼け」をおこしますので少しずつ、まめに、バランス良く施します。

（参考）別冊NHK趣味の園芸「よくわかる 土・肥料・鉢」日本園芸協会。野菜講座基礎編テキスト。JAとびあ（浜松）



植物に必要な養分は92%が空気と水から吸収できる「炭素・酸素・水素」ですが、残り8%は空気と水から吸収できません。この8%の養分の中で特に重要なのが「チッ素・リン酸・カリウム」です。チッ素は「基本的生育」に関わり、茎葉や根を生長させる養分の吸収を促進させる作用があります。不足すると「葉が小さい、葉が薄くなる、生育不良」などの症状が現れます。肥料としては「油かす、魚かす」などがあります。リン酸は「生長」に関わり、茎葉や根の伸長を助け、開花や結実を促進します。不足すると、「着花数の減少、開花や結実の遅れ」などの症状が現れます。肥料としては「骨粉、米ぬか」などがあります。



情報 花のイベント

- 入谷朝顔まつり
 7月6日（日）～8日（火）台東区入谷
- 浅草寺ほおづき市
 7月9日（水）～10日（木）浅草寺
- 大輪朝顔展
 7月27日（日）～8月3日（日）向島百花園
- ジャパンフラワーアレンジメント&ブライダルブーケショー
 8月1日（金）～8月3日（日）ホテルマリナーズコート 東京